

令和2年度第1回一関市観光審議会 会議録

- 1 会議名 令和2年度第1回一関市観光審議会
- 2 開催日時 令和2年8月26日（木）午前10時から11時45分まで
- 3 開催場所 一関保健センター栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐々木賢治委員、伊藤利幸委員、船山賢治委員、角谷公博委員、船生律子委員、 昆野洋子委員、松本数馬委員、水谷みさえ委員、千葉敏則委員代理
以上9名出席（欠席者：小澤侑里奈委員）
 - (2) 事務局 高橋邦夫副市長、森本竹広商工労働部長、三浦洋商工労働部次長兼観光物産課長、坂本伸也観光物産課主幹、小野寺孝良同課観光係長、山崎政義同課物産係長、小野寺裕太郎同課観光係主事

5 議 事

- (1) 一関市観光振興計画の推進状況について
- (2) 次期（令和4年度から8年度）一関市観光振興計画の策定について

6 懇 談

新型コロナウイルス感染症対策に係る今後の観光振興について

- 7 公開、非公開の別 公開
- 8 傍聴者の数 2人（報道機関）
- 9 挨拶

(1) 高橋副市長

一関市観光審議会委員の皆様には、お忙しい中、また、猛暑という条件の悪い中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から市政の推進、あるいは観光振興にご支援ご協力を賜りまして、重ねて御礼を申し上げます。

観光審議会でございますが、当市の観光事業の推進に関しまして、様々な事柄を調査、審議いただく機関でございます。皆様には本年4月に改めて委嘱をさせていただいたところであります。

現在の一関市観光振興計画でございますが、今年で4年目に入っているところであり、計画に掲げました観光入込客数と外国人の観光入込客数の目標値は、それぞれ平成30年度、令和元年度に目標達成するなど、順調に推移をしてきたところであります。

しかしながら、今般、新型コロナウイルス感染症の感染拡大ということになりまして、国内はもとより海外、世界中に影響が広がっております。

人、あるいは物の動きが停滞をしており、経済活動が低迷している状況となっております。特に、観光関連産業への影響というのは当市のみならず、計り知れないものであると認識しております。こうした中で、市として新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、深刻な影響を受けておられる事業者の皆様への対策を行っております。例えば、宿泊施設特別支援給付金や、感染防止取組事業者支援給付金といった支援金の給付や、市民の皆様が市内の宿泊施設に宿泊される際の宿泊費の一部を助成させていただく観光宿泊施設緊急対策事業など、各種の施策を講じさせていただいております。

また、ハード事業では、観光客の受入環境の整備のために、一ノ関駅前などにWi-Fi環境を年度内に整備することにしております。

本日の審議会ですが、これからのwithコロナ、こうした新しい時代における当地域の観光振興や、各種イベントの実施の在り方、こういったことにつきまして、皆様からご意見やご提言を頂き、今後の施策に反映してまいりたいと考えております。

委員の皆様には、ぜひ積極的かつ忌憚のないご意見をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

10 正副会長選出

一関市観光審議会条例第5条第1項及び第2項に基づき、会長に佐々木賢治委員を、副会長に船山賢治委員を選出した。

11 議事及び懇談内容

- (1) 一関市観光振興計画の推進状況について
- (2) 次期（令和4年度から8年度）一関市観光振興計画の策定について
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策に係る今後の観光振興について

事務局が、資料に基づき説明し、質疑及び意見交換を行った。

委員 観光振興計画の新たな方針の中に観光消費額というものを入れることについて、DMOでも消費額やKPIという参考になる数値があるし、国でも入込客数に加えて消費額を増やしていくことを国策として捉えているというように認識しているので、よろしいのかなと思う。

ただ、消費額の算定というものは、今までやっていないと思うし、DMOとしては出しているが、どういう要素を含めていくかは、非常に難しい部分もある。消費額の算定は、例えば、狛鼻溪に来たお客さんへのアンケートで、「どのくらいお金を使っていますか？」という地道なデータから行われており、目

標値をどう定めていくのかということが難しいかなと感じた。

それから、新型コロナウイルス感染症のところは、これも確かに重要だとは思いますが、どこまで入れるかというのはすごく難しい。状況はかなり変わってくるもので、何か重点的な取組をやるということが、あと4年間の中で何か達成するものになるのかどうかということは、分からない部分がある。計画の中に入れ込むものなのか、状況に合わせて探っていくべきなのかどうかというのが気になった。

事務局 目標値について、具体的にどのような取組をし、どのような算定とするかは、引き続き検討していく必要がある。

新型コロナウイルス感染症については、なかなか見えにくいところであり、感染の状況、経済の動き、こういったものを注視しながら計画にどう反映していくかを、次年度に向けて検討していきたいと考えている。

委員 例えば、観光消費額にしても、新型コロナウイルス感染症を前提にして作る数字と、それをある程度加味した数字では全然違うものになってくると思う。

例えば、宿泊業では、今は100%の稼働ができず、国のガイドラインに合わせてると大体半分くらいしか入れられない。このような現状を踏まえると、そもそも数字目標を設定することも、宿泊業だけでなく、例えば、商店や土産屋とかにも影響が出てくると思う。

そこを無視して数字を決めるのか、見据えてなのか、二つの数字を出していかないと難しいのではないかと思う。

大方の見方をすると、今の状況が2年か3年は続くだろうと言われている中で、良い数字だけを出してもいけないと思う。現実に即した形でどういう数字にするかを見ていかなければいけないと思う。

事務局 数字については、現段階ではこのような設定も必要ではないかということの説明したが、来年度に向けて検討していきたい。

観光審議会だが、本年度については今のところは1回の予定と考えている。そのため、次期観光振興計画の策定は、来年度になる。その際、来年度いきなり集まって考えてくださいではあまりにも拙速すぎるので、今のうちから情報を皆様にお伝えし、来年は次期観光振興計画を作る年だということをお知らせしたいとの思いでスケジュール案を示した。

本日、頂いた意見については大切な意見であるので、来年度に向けて検討していく。

当市の来年度の当初予算編成が早いもので、既に8月から行っている。この

観光部門については、観光審議会の皆様方から、今、コロナ禍の中で感じていることなど、来年度に向けてもう少しこの部分に力を入れてほしいという意見でも、当初予算に向けてといったこともできるので、次期観光振興計画に限らず、現状の中での思いなどもお聞かせいただければと思う。

委員 今、宿泊業や商店、いろいろな方々が、新型コロナウイルスで大変な被害を被っている。それでも何らかの支援はあるが、イベントを行うに当たって、「手洗いをしなさい」「マスクを付けなさい」「名前を記入しなさい」とすると、非常に人件費がかかるので、そういうところを今後見てほしいという思いがある。

それから、前は策定委員として参加し、今回は審議会委員ということで、自分達で作ったものを審議し、成果あるいは批評を自分なりに評価できることが良かったと思っている。そのため、この委員を選ぶに当たって、この振興計画の中にエリアを決めてあるので、このエリアも考慮に入れて人選をしていただければと思う。委員が多くなっても、エリアを考慮しないと、うまくないのではないかと思った。他の地域の方々にも出てもらい、自分の地区のことを話してもらえれば、一関全体の振興に繋がるのではないかと思っている。

委員 次期計画に関連して、次に進むに当たって、そもそも日本国内からの観光客と外国からの観光客が求めているものが何なのかということを知らなくてはいけないのではないかと思う。

10年間の計画があって、5年計画を立てた。そして実際に5年間やりました、5年間の結果はこうです、次はこうですというのは、今、書かれている通りで数字も出ているし、次に向けても出てくると思う。しかし、実際に観光客が何を求めていたのかは把握しているか。

それから、例えば23、24ページの観光客の数だが、単純に見れば、日本人観光客数は、平成30年から令和元年にかけて減ったというデータだが、外国からの観光客数は伸びている。ここはもっと掘り下げるべきで、日本人の中でも分類がまだあるのだと思う。そのことによって、一関に求めているものが何だったのか、求められていてその結果、経済が発展したのは何だったのかというところを、もう少し数字の上で詰めていく必要があって、それをやることによって、一関に観光にくる意味が見えてくると思う。

それから、今、コンビニエンスストアが結構あるが、駅の近くにあるコンビニと観光地の近くにあるコンビニの来店数はどう変化したか。また、観光地にあるお土産売り場の売上が、観光客が来たことによって伸びているのか、または、お土産売り場ではなくて、その近くにあるコンビニエンスストアが伸びて

いるのか、外国人はコンビニが好みなのか、それともお土産売り場を外国人向けのように作り変えていかなければいけないのかを分析し、結果、求めているものは何だったのかという答えを出さないと、計画を立てても次に繋がらないのではないかと思う。要はお客様が感動するものを、お客様がそこに来たいと思うものを、そして一関に来たことによって、また来たいと思ってもらえる一関に変わることが、やはり観光だったり商業だったり私達が考えていく次の取組だと思うので、そのところを次に活かしていただきたい。

委員 狛鼻溪では、入口に新しくコンビニができた。せっかく狛鼻溪に来たのだから狛鼻溪の名物や日本食を食べていただきたいという思いがあるが、対応できておらず、てっとり早くコンビニでおにぎりやパンを買い、船に乗ってもらう状況であり、今の話のとおりだなと思った。

以前の話だが、会津若松に研修に行った時に、会津若松の観光協会が素晴らしいと思った。観光が地域に及ぼす経済効果というものを、そこではきちんと出していた。先ほど話があったが、それをどのように定めて、何処から情報を集めて、集計をして、それを固定化して、毎年検討して行って、人件費から購買からきちんと出せるというのは羨ましいなと感じた。

経済効果を出せば、市民の皆さんにも観光というのが、地域としては必要だということが分かってもらえる気がする。それができないと観光の人だけ良いね、という話になってしまうので、そのためにも観光消費額を出すというのは良いことだと思う。

委員 例えば、外国人は畳がある、将棋を見るというだけで喜んでくれると思う。また、土間や井戸、そういうものを珍しく思ってきてくれる。そういう感動するとか、商品を提供するということが大事になってくると思う。

また、日本茶も日本独特のものだと思う。これが中国に行けば、烏龍茶を飲みたいとか、紅茶を飲みたいといったことがあると思う。同じように、外国人を日本茶の提供をしている所にすぐお連れする仕掛けなど、身近なところにたくさん材料があるので、深掘りができればと思った。

委員 今の話の中にもあったが、観光地として有名なところ、他から見ると魅力があるものというのがあると思う。

休みの日に一関周辺を見て回ると、いいなと思うところがあるのだが、そういうところはあまり整備されていない。コロナ禍の中でこの先どうなるかは分からないが、そういったところを地道に少しずつ整備していければと思う。

そういった見どころ、いわゆる隠れている見どころには必ず歴史があり、ス

トリーがある。そういうものを見つけ出していくことも必要だと思う。

振興計画だが、令和4年から8年度で、確かに新型コロナウイルス感染症で先が読めない中、計画を立てるといのはすごく大変だと思う。例えば、来年の7月にどうなっているかは、誰にも分からない。ただ、今、やれるものもあると思う。挨拶で副市長も話されていたが、Wi-Fiの整備などハード的なこと、そういったことを着実にやっていく。あとは、情報発信の継続ということが非常に重要だと思う。そういったものを計画の前半の方に入れて、後半は、コロナ禍でどうなるか分からないが、これぐらいのインバウンドの集客数があるように取り組むことも必要なのかなと思う。

委員 現在のタクシーの状況だが、旧一関地区とその他地区の状況が違っている。

旧一関地区だけを見ると、3月が2割から3割の落ち込み、4月が大体50%、5月が55%の落ち込みという状況である。6月からいくらか回復傾向で、65%くらいまで回復し、7月は70%くらいまで回復したが、8月は、帰省客・観光客の関係があると思うが、また大幅に落ち込んで、少し不安定な状況である。大船渡沿線あるいは郊外は、大体15%から20%くらい、ひどい時で大体30%までいかないという動きである。数字を見てみると、旧一関地区は新幹線に頼っている部分がものすごく大きいというのが実情である。

対策だが、マスク、除菌はもちろん基本的なことなので、当初から行っているが、ビニールシートで被う方法は、前席と後席を仕切ってしまうために、どうしても冷気が後ろに行かなくなるので止めてしまい、別な方法として、運転席と助手席、後ろの座席と仕切り、全体に冷暖房が行き渡るような方式に切り替えたが、仕切りを作る業者に依頼が集中しており、頼んでも一か月半待ちという状況にあり、なかなか追い付いていない状況である。

それから、令和4年度からの計画を3年度に検討するようだが、先程、事務局が話したように、いきなり言われてもできるものではない。なかなか先が読めない状態の中なので、二通りとか作り方を考えていかないと駄目だと思う。

委員 岩手県内や近郊のお客様の動きというのは非常に大切になるだろうと考えており、コロナ禍が始まる前から、観光地の見直しをしすべきだと考えていた。

先程、話もあったが、あまり知られていないような場所、例えば、大東の小黒滝や、巖美に小さな滝などいろいろある。その良い例が、あじさい園の活況というか、凄い人数の方にいらしていただいて、それが多分ほぼ車で来られる方々だったと思う。その辺の分析がまだ届いていないし、見てもいないからだ、かなりの方にいらしていただいたという事実が、やはり動かせるものは動

かせるということなのだと思います。

宿みたいに、敷居が高いところは難しいにしても、そういったことが無いところは、やり方によってはあじさい園のようになれるのかなと感じた。新たな観光地ではなく、今ある観光地の見直し、そういったものを何とか作り上げていきたいという話をちょうどしていたところに、今回のコロナ禍となった。その取っ掛かりとして国道342号線を焦点にして、須川高原温泉の真湯から先の部分でいろいろな仕掛けや見直しをやっていこうと考えている。その中に真湯地区の猿跳さるつばね古道であるとか、新しいお店とか、そういうところを上手く宣伝していけたらいいなと思っていた。その中であって宿泊業は、色々な施策を取っていただいて、市や県、国と様々な支援を頂いている。ただ、先程も言ったように、支援は頂いているが、宿泊施設に入れる量が昔のように100%という訳では無いので、その分、他の事業を行っている方々の力になればと、地元の食材の使用など、我々の産業は裾野が広く、いろいろな方々に影響を与える事ができると思う。そういったところを含めて、今後も温泉郷としては活動していきべきだろうと考えている。

あと、見方によっては厳しいものになるかもしれないが、入客率を50%、70%と足かせをかけると、会社の継続が非常に難しくなってくる。人件費のところが一番問題になってくると思うが、その当たりも温泉郷では考えていきたいと思っている。

話を戻すが、食材関係については、指導を頂いて取り組んでいるが、ビーガン、完全菜食主義者に少し目を向けてみると、岩手県あるいは一関市では、結構やれそうな分野であるかなと思っている。どうしてもハードルが高いなと考えがちであったが、日本酒や蕎麦、あるいは旅館で出している料理の精進部門というのは、ビーガンに繋がるものがあるので、そういったところに目を向けて、新しい商品の構築をしていった方が良いかなという話も一部、温泉郷の中では進めている。

また、去年の自転車のイベントでも、皆様のご協力のおかげで何とか成功することができた。今年も実施する予定であったが、コロナ禍で中止とした。来年は、また行う方向で準備を進めている。

それからDMOと一緒にいる祭時スノーランドの活用を、新たなインバウンド向けにということで行っているが、いずれ、新しいことに少し目を向けてやっていけたらと思っている。

委員 ガイドの会では、コロナ禍の中での活動状況について、観光ガイドと常駐ガ

イド、そして語り部という活動をしている。観光ガイドは、例年の件数は多いが、今は数件しかない。語り部の会は、春・秋・冬に行っている。冬は検討段階だが、春と秋に関しては中止とした。常駐ガイドは、駅の構内で臨時案内所を開設している。例年なら5月の連休からだが、新型コロナウイルスの感染の状況を見据えて始めるということで、8月1日から開設した。観光に携わる者としてはとても嬉しいことであるが、やはり安全についても考えてしまう。

コロナ禍ということで、観光客は少ないが、8月22日にコンコースが賑わった。学生たちの合宿の帰りということだが、いつも寂しいコンコースがすごく賑わった。そして、賑わえば、お土産も買われて、やはり観光は大事だなと実感した。正直なところ、不安はあるが、こうして経済は動いているのだなということを実感したので、ガイドの会に来ていただいた方にはそのような気持ちで接したいと思っている。

委員 観光の入込客数や宿泊数もそうだが、岩手県は入込総数の中で県内利用が凄く高く30%くらいある。全国47都道府県では、第2位となっている。1位が北海道、2位が岩手県である。

今、市で市民向けの割引という制度があるが、是非、栗登一平や近隣との連携、そういった部分で人を動かしていくということを官民一体で考えて、施策にできればと思うし、裾野が広いという意味で言えば、観光はある程度、注目されている部分もあると思うので、改めてこういうことをやっていくことが経済を回すことにもなるのだと思う。

これはやはり観光に関わる方々が、情報を発信していくことが大事だと思う。

委員 市民割引について、もう少し周知してほしい。

我々の仲間でも知らない人が多く、Go Toキャンペーンばかりがよく新聞などに出てくるが、宣伝方法を考えてもらえるといいなと思う。

委員 これに関しては、お客様の中に、国、県の施策、そして市の施策があることで、何がなんだか全部は分からなくて、市や県で行っているものも含めてGoToキャンペーンという捉え方をしている方もいるようだ。内容を聞いてみると市の支援策のことだったりするので、分かりづらいところがあると思う。

委員 事業者の側でも発信していくことも必要だと思う。

それから、5千円の商品券の配布に際して、チラシなどで、こういう観光施策もあるということをお知らせしても良いと思う。

事務局 この市民割については大変、好評を頂いており、既に予約分も含めて7割超くらいの進捗具合である。いずれ、改めてFMあすもなどを通じて広報したい

と思う。

12 担当課 商工労働部観光物産課